

(3)学校評価表①令和5年度学校評価表

◎目標以上に達成できた項目 ○達成した項目 ▼達成できていない項目 □評価・改善策

小中一貫教育の推進	中期 (3年間) 経営目標	短期(今年度) 経営目標 (2/3)	目標達成のための手立て	評価指標	自己評価		学校関係者評価		改善計画
					12月 月 評 価	結果と課題の説明	適 正	意見等	改善案
確かな学力	学力の三要素、資質・能力を育成する「主体的な学びを促す授業」の実践	基礎的・基本的な学習が定着した児童 2/3	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業・ドリルタイムの時間を実態に即した内容で行い、基礎学力の確実な定着を図る。</li> <li>既習事項の定着を図るため、復習プリントを行ったり、活用問題を解く練習をしたりする。</li> <li>読書習慣の定着を図る。(必読ブックリストの活用・週末読書の取組み)</li> </ul> <p style="text-align: right;">【教務部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①単元末テストの達成度(学期毎)国語・算数(各観点)80%以上の児童80%以上</li> <li>②標準学力調査の達成度を全国平均値以上</li> <li>③読書貯金の低・中・高の目標達成率80%以上</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>①2学期の単元末テストの達成率80%以上の児童は、国語88%、算数85%であった。課題が大きい学年には、学習支援員等を配置し、個別の支援を行う。【◎】 ※資料①②</li> <li>②標準学力調査は12月12日に実施。結果未発表。</li> <li>③読書貯金の目標を達成した児童は91.2%であった。引き続き、週末には、一人一冊読本を持ち帰り、読書をし、家庭での読書習慣を定着させる。【◎】</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習支援員を配置し、担任と一緒に学力向上に向けて指導ができるのよいことだと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業や家庭学習で、ミライシート等を使い、基礎的な問題に取組ませ、基礎学力の定着を図る。</li> <li>読書量を増やし、読解力の向上を図るため、必読ブックリストを活用したり、週末読書の取組みを継続して行ったりする。</li> </ul>
		主体的・探求的な学びの姿勢を持つ児童 2/3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「対話」「振り返り」の学習過程を基盤とした授業づくりを推進する。(聴き方名人の活用・「あやめ」の視点で振り返り)</li> <li>ことばタイムやことば探究科等により語彙力を増やし、自分の考えを発信する活動を展開する。(日記・俳句・詩等)</li> </ul> <p style="text-align: right;">【教務部】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「授業で「あやめ」の視点で振り返りを行うことができる」と答える児童80%以上</li> <li>②「友達の考えを聞いたり、話し合ったりしたので課題が解決できた」と答える児童80%以上</li> <li>③「自分の考えを表現するのが楽しい」と答える児童80%以上</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「授業で「あやめ」の視点で振り返りを行うことができる」と答えた児童は92.2%であった。引き続き、授業の終末では、「あやめ」の視点で振り返りを行い、それを次時で活かすことで意義をもたせる。【◎】</li> <li>②「友達の考えを聞いたり、話し合ったりしたので課題が解決できた」と答えた児童は90.9%であった。【◎】引き続き、「聴き方名人」等を活用し、学び合う姿勢を育てる。</li> <li>③「自分の考えを表現するのが楽しい」と答えた児童は95.2%であった。【◎】引き続き、自分の考えを発信する活動を効果的に取り入れ、表現する楽しさを味わわせる。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>「あやめ」の視点を上下学間で統一して振り返りができているのはよいことだと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、「聴き方名人」を活用し、友達のを聞く際に必ず反応させたり、「発表名人」を活用し、相手に伝わる説明の仕方を意識させたりする。</li> <li>人前で発表する経験を積み、自分の考えを表現する力を高める。また、取組みの振り返りを行い、身に付けた力を評価し、価値付ける。他教科の学習や生活の中でも取組んだ内容等を活用させる。</li> </ul>
学校 地域とつくる	地域とともに育つ児童の育成	地域の課題に向き合い地域とともに学ぶ児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の課題に向き合い、地域とともに学ぶ授業を展開し、地域人材を計画的に活用する。</li> <li>積極的に情報発信を行う。(学級・HP・CSだより)</li> </ul> <p style="text-align: right;">【CS】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各学年、地域の方との学習を年間3回以上仕組む。</li> <li>②地域への貢献度や地域の方との学習満足度を向上させる。(児童アンケート、肯定的評価90%以上)</li> </ul>	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>①【○】</li> <li>1・2年生は、サツマイモと生姜の収穫を、地域の方に協力をいただき、一緒に行った。また、収穫をお手伝いいただいた地域の方をお招きし、収穫祭を行った。</li> <li>2年生は、生活科で府中市立図書館上下分室へ見学に行った。</li> <li>3年生は、社会科で府中渾方署小塚出張所へ社会見学を行った。また、翁陣太鼓の練習で我龍の方に指導をお願いした。</li> <li>4年生は、エコキャップやプルタブの回収を行い、地域の方にも回収に協力をいただいた。</li> <li>5・6年生は、CSの方との対談会を開き、上下のことについて話し合った。</li> <li>5年生は、JAの協力により、稲刈りを行った。</li> <li>6年生は、総合的な学習の時間で、上下歴史文化資料館の協力を得て、Hidden Japan ツアーに参加した。また、図画工作科で、画家の奥田敏雄さんと共同制作をした。</li> <li>ひまわり学級は、ヤストモ文具、北尾種苗店で買い物をした。</li> <li>茶道クラブで、地域の方々に年間を通して指導をお願いしている。</li> <li>②児童アンケート「地域への貢献度や地域の方との学習満足度」の肯定的評価は93%(1学期92%)であった。年間を通して地域の方との学習を実施し、児童の意識をさ</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童とこれからも関わって活動していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して、地域の方と活動できる場面を設けていく。</li> </ul>

					らに向上させたい。 【○】※資料②		
健全な体・豊かな心	自律した児童の育成 【規範意識と自己肯定感 自己有用感の育成】	健康な体を作るために自分の記録に挑戦する児童 2/3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育的行事に目標をもって取組ませる。</li> <li>・体育科で児童の運動量を十分に確保する授業づくりをする。</li> <li>・「新体力テスト」に関する美技の校内研修の実施。</li> <li>・業間体育の実施。</li> <li>・基本的な生活習慣を身に付けさせるために、「生活調べ」を実施し、結果をもとに児童・保護者へ啓発する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【生活部】</p>	<p>①新体力テストの種目における県平均達成率80%以上</p> <p>②ストップ9、早寝・早起きができる児童80%以上(アンケート)</p>	<p>①新体力テストの種目における県平均達成率は、58% (56/96種目：6学年男女×8種目)であった。(1学期実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種目別では、握力、50m走、立ち幅跳びで達成率が低かった。</li> <li>・課題に基づき、体育科の授業改善(準備体操の改善、体育科の授業研究、市教研保健体育部会への参加や資料の共有)や、体育的行事(マラソン大会と3分間マラソン)を通じた取組み、休憩時間等の外遊びの推奨を行った。12月に課題の大きかった上記3種目について再測を行ったところ、握力(1/12→4/12)、50m走(4/12→6/12)、立ち幅跳び(5/12→6/12)と、改善が見られた。</li> <li>・今後も運動の楽しさを味わわせるとともに、体育科の授業改善や行事に向けた取組み等を通じて、体力の向上を図っていく必要がある。</li> </ul> <p>【▼】※資料④</p> <p>②児童アンケート「ストップ9」「早寝」「早起き」の肯定的回答は、82%(1学期90%)であった。ストップ9を守れていない児童が35%(1学期10%)、就寝時刻が22時を過ぎる児童が14%(1学期13%)いた。1・2学期に実施した「生活調べ」の結果を用いて指導するとともに、お便り等を通して家庭への啓発を行い、協力を得る必要がある。</p> <p>【○】※資料⑤</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの児童の特性に合わせた運動を行うことがよいと考える。児童の得意なところを伸ばしてほしい。</li> <li>・大谷グローブを活用して、運動に親しむ児童が増えるとうと考える。</li> <li>・ストップ9は、保護者がスマートフォンの使い方意識する必要があると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業において、個の特性に応じて選択できる課題や場の設定の工夫(跳び箱の高さや長さを選ぶ、走る距離を選ぶ、など)を行う。また、様々な運動に取組む経験を積み、課題を自ら選択して取組める児童の育成を目指す。</li> <li>・各学年児童に大谷グローブを活用させ、運動に親しませる。</li> <li>・保健便りを通して、生活習慣を意識したスマートフォン等の使い方を啓発する。</li> </ul>
		自他を大切にし、相手思いやり、気配りができる児童 2/3 【掃除の目指す姿】 黙って、見つけて、協力して、丁寧に 【挨拶の目指す姿】 ★地域・お客様・先生へレベル5の挨拶ができる ★場に応じた挨拶ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「無言掃除の徹底」 自分で考えて動く掃除を充実させるとともに、縦割り班班長をリーダーとして振り返りの充実を図る。</li> <li>・「挨拶の徹底」 児童会活動を中心とした挨拶の励行・肯定的評価・徹底を図る。</li> <li>・自己開示できる居心地の良い学級づくりの充実</li> </ul> <p style="text-align: right;">【生活部】</p>	<p>①「無言・丁寧・自分で見つけて掃除ができる」と答える児童90%以上(アンケート)</p> <p>②「レベル5の挨拶に取組んでいる」と答える児童90%以上(アンケート)</p> <p>③「挨拶マイスター」受賞児童55%以上(マイスター受賞人数)</p> <p>④「安心して学級で生活できる」と答える児童90%以上(アンケート)</p>	<p>①児童アンケート「無言・丁寧・自分で見つけて掃除ができる」の肯定的回答は、93%(1学期95%)であった。全校児童数の減少により、各場所を担当する児童の人数も減り、手が回りづらい状況があるが、これまでの取組みを継続するとともに、特に水回り・階段・廊下をきれいにしよう声掛けや指導を行っていく。</p> <p>【○】※資料⑥</p> <p>②児童アンケート「レベル5の挨拶に取組んでいる」の肯定的回答は、85%(1学期83%)であった。挨拶をすることに消極的な児童が一定数いると考える。「愛の声掛け運動」や児童会の挨拶運動を継続するとともに、教職員が児童へ積極的に挨拶をする取組みを行っていく必要がある。全校集会の時や、学級指導の際に、挨拶を推奨する指導を行う。挨拶ができている児童に肯定的評価を伝えたり、挨拶ができている姿を紹介したりして自信をつけさせる。</p> <p>【▼】※資料⑦</p> <p>③12月までに「挨拶マイスター」に認定された児童は、54名(64%)(7月まで：23名(27%))であった。「挨拶マイスター」を励みで挨拶に取組む児童もおり、児童の意欲向上が見られる。教職員からの価値付けや、お手本となる児童の紹介等を通じて、今後も挨拶の向上に取組んでいく。</p> <p>【○】※資料⑧</p> <p>④児童アンケート「安心して学級で生活できる」の肯定的回答は、90%(1学期94%)であった。いじめアンケートの実施・教職員間での情報共有・担任と児童との面談・SCの活用などを行い、児童の悩みを解決する取組みを継続中である。</p> <p>【○】※資料⑨</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校外では、挨拶ができる児童が増えていると思う。特に高学年ができるようになってきている。</li> <li>・「安心して学級で生活できる」という文言が、何を問うているのかわからない。例えば、施設面では「学校でトイレに行きたくないから、学校へ行きたくない」と考えたり、家庭面で「学校で失敗したら家で怒られるから学校へ行きたくない」と考えたりする場合もあると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して挨拶の指導を行っていく。</li> <li>・「安心して学級で生活できる(友達や先生のこと、勉強のことなど)」という文言に変更し、学校が把握したいことを明確にしたアンケートにする。また、個別の面談を継続して実施することで、児童の悩みを把握できるようにする。</li> </ul>